令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号３０２　豊玉中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・全国学力・学習状況調査の結果では、平均正答率は 64.0%で、全国平均 63.9%をわずかに上回っている。一方で、東京都の平均正答率 68.0%と比較すると 4.0 ポイント低い。学習指導要領の内容別では、「読むこと」は 62.8%で全国平均を 3.1 ポイント上回っているものの、「話すこと・聞くこと」は 60.6%、「書くこと」は 65.2%で、いずれも東京都の平均を下回っている。 ・問題形式別では、選択式の平均正答率が 75.7%であるのに対し、短答式は 52.5%、記述式は 40.1%と低くなっている。特に、話し合いを踏まえて自分の考えをまとめる問題（40.4%）、文章の交流を基に改善点や今後に生かしたいことを書く問題（37.2%）など、自分の考えを整理し、根拠を明確にして文章で表現することに課題が見られる。また、文脈に即して漢字を書いたり、語句の意味を捉えたりする問題の正答率も低く、基礎的な言語事項を実際の文章の中で活用する力にも課題がある。 ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙では、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的な回答が 82.4%で、東京都 78.2%、全国 76.8%を上回っている。このことから、国語の学習に対する興味・関心や授業内容の理解については、肯定的に捉えている生徒が多いことが分かる。一方で、学力調査では記述式問題等に課題が見られることから、授業内容を理解することに加え、理解したことを基に自分の考えを形成し、文章や言葉で表現する力をさらに伸ばしていく必要がある。	・自分の考えを整理し、根拠を明確にして表現する「書く」活動を意図的に増やす。話し合いや文章の読み取りの後に、理由や根拠を明確にして自分の考えを書く時間を確保するとともに、互いの文章を読み合い、良い点や改善点を伝え合う活動を取り入れる。 ・「話すこと・聞くこと」の学習では、目的や相手を意識して発言することに加え、他者の意見を聞いて自分の考えを深めたり、話し合いの内容を整理して考えをまとめたりする活動を充実させる。グループ学習や ICT 機器を活用し、生徒同士が考えを比較・共有する機会を増やす。 ・漢字や語句については、単独で知識を身に付けるだけでなく、実際の文章や日常の言語活動の中で意味や使い方を確認する機会を増やす。特に、文脈に即して語句の意味を捉えたり、適切な言葉を選んだりする活動を継続的に行う。 ・生徒の学習状況に応じて、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、十分に理解できている生徒には、複数の情報を関連付けて考えたり、根拠を明確にして表現したりする発展的な課題を設定する。また、国語の学習が好きであることや授業内容が分かるという生徒の肯定的な意識を生かし、学習したことを活用して考え、表現する活動を充実させることで、学力の向上につなげる。
社会	・試験や小テストの前に知識のみを習得しようとしている。その知識を活かし、自ら学ぼうとする意欲が乏しい。 ・授業のワークシートや定期考査の結果から思考・判断・表現の観点に苦手意識が強い生徒が多い。その結果、深い学びにつながっていない。知識を得ることができるが、その知識を活用できる発想につなげることが難しいと考えられる。	・生徒自身が関心をもち、自ら取り組むよう、教材や学習課題を見直す。学習課題を知識・技能の定着だけでなく、それぞれの関心や習熟度に合わせて学習課題や学習方法を選択できるよう計画する。 ・学習課題の見直しを行う。習得した知識を活用した協働学習を設定し、活動では大型ホワイトボードや ICT 機器を活用し、より活発な話合い活動を展開する。また、評価の場面ではルーブリック評価を活用し、適切なフィードバックを行っていくことで、発表やレポートの質を高める。
数学	・全国学力・学習状況調査の結果では、平均正答率 58%で東京都平均よりも低く、全国平均よりは 1.0%高い数値を示した。分野別では「図形」と「データの活用」の平均正答率が 51.9%で他の分野より低い。「数と式」や「関数」も全国平均よりは上回っているが、東京都平均よりも下回っている。 ・全国学力・学習状況の意識調査で「数学の授業がよく分かりますか」という質問に対し、「分かる」「どちらかといえば、分かる」という肯定的な回答が 78.1%で東京都平均よりも 0.7%高く、全国平均より 3.9%上回っている。	・「数と式」と「関数」の授業を強化し、式の意味を読み取ったり、数学的な表現を用いて説明する内容を積極的に取り入れたりする。 ・自分の考えを説明する機会を増やす。グループ学習やホワイトボードを活用して対話型の授業展開を中心に行う。 ・日常生活に関連する問題を取り入れ、論理的思考が日常の様々な場面で活用されていることを意識付けさせる。
理科	・定期考査や小テスト等の結果から、知識や技能の定着が不十分な側面があり、論理的な説明を言語化することが苦手な生徒も散見される。 ・実験や観察などの実習には積極的な姿勢があるものの、結果が理論とつながらず、考察の書き方等に不安や自信の無さが表れ、考えを表現することに苦手意識を感じている生徒がいる。	・「e-ライブラリ」などの学習コンテンツや問題集なども利用しながら、ドリル的な要素を取り入れることや、授業の振り返り、単元の振り返りを確実に実施し、知識や技能の定着および向上を図る。 ・論理的な説明や思考を促すワークシート等の工夫を行うとともに、自分の考えを他者に伝える活動の場面を意図的に増やしていき、表現力や考える力を身に付けさせる。

音楽	・実技については意欲的に取り組む生徒が多いが、一部の生徒で自らの表現に消極的な姿勢がみられる。鑑賞では、音楽的な見方や感じ方を意識しながら自らの考えを言語化できる生徒が多い。 ・楽典項目（音符・休符など楽譜の読み方）において、基礎的な知識を習得していない生徒が多く見受けられる。	・一単位時間の中で表現活動と鑑賞、話し合い活動等を織り交ぜ、飽きさせず取り組みやすい授業を構築するとともに、周囲とのコミュニケーションを密にすることで、音楽に対する言語的表現を自然に習得できるよう心掛ける。 ・表現活動で使用する楽譜を使用して、曲の中で必要な楽典項目を確認する。教科書だけでなく資料集の活用や、補助プリント等を適宜発行することで、生徒が主体的に基礎的な知識を身に付けられるよう支援する。 ・配布したプリントや教材は、クラスルームにアップして、欠課した生徒にも情報が伝わるようにする。
美術	・作品制作において、自分なりに主題を生み出して発想を広げ、構想を練ることに苦手意識を感じている生徒がいる。 ・長期間の取り組みで完成させる作品制作では、制作意欲を維持し続けられない生徒がいる。 ・定期考査に向けた学習方法を理解していない生徒が一部いる。	・ワークシートを工夫したり、参考作品のバリエーションを増やしたりする。また、グループで相互に作品構想や意見を出し合う活動を取り入れる。 ・作品制作の中で個々の能力に応じた短期目標や、授業ごとにスモールステップを意識した達成目標を与え、創作意欲を高める。 ・定期考査前にクラスルームで授業内で配布したプリントをアップしたり、学習をまとめたプリントを制作したりして、学習方法を明確にする。
保健体育	・授業の「ねらい」に沿って、自分の課題は見付けられるが、課題解決のために練習を工夫したり、話し合いを活発にさせたりすることを苦手としている生徒が多い。 ・運動に対して苦手意識を強くもつ生徒は、粘り強く取り組むことができず、諦めてしまう。	・単元の導入や授業において「ねらい」をわかりやすく可視化し、段階的に取り組める教材やメニューを提示する。また、班活動では意見交換をしながら工夫の仕方を考えさせる。 ・グループ学習を多く取り入れ、仲間と共に楽しみながら技能を習得できるよう工夫する。
技術・家庭	・技術・家庭は基礎的な知識や技術を習得するだけではなく、自ら考えたり、新たな課題等を見付けたりする力が求められる。そのような思考や課題発見等について、主体的に取り組めない生徒がいる。 ・作品製作において、完成させるための見通しを立てることに苦手意識をもつ生徒もいる。	・ワークシートの工夫や活用を行い、課題を見付ける。グループで意見を交換し、自分の考えをまとめることで、問題解決能力を身に付ける取組を意図的・計画的に行っていく。また、ICT を活用し、生徒自身が自身の技能や課題の特性に合ったツールを自由に選択して学習に取り組めることができる環境をつくる。 ・製作前に授業の目標を立てさせたり、振り返る時間を設けさせたりすることで見通しをもたせる。
外国語（英語）	・全国学力・学習状況調査の IRT バンド集計値をみると、IRT バンド５の割合は、全国の 5.9%や東京都の 9.2%に比べ、本校は 2.2%で低い割合である。また、IRT バンド１の割合は、全国の 4.7%や東京都の 2.9%に比べ、本校は 2.2%で低い割合である。中間層である IRT バンド３の生徒の割合は、47.3％で全国の 38.4％や東京都の 37.5%よりも上回っている。 ・全国学力・学習状況の意識調査で「英語の内容はよく分かりますか」という質問に対し、「分かる」「どちらかといえば分かる」という肯定的な回答が57.2%で東京都平均、全国平均よりも大きく下回っている。 ・授業に積極的に取り組む生徒が多い一方で、基礎英語力がついていない生徒がみられる。	・単元の終わりに行っている単元まとめテストの前に単語や文法の復習を行い、基礎英語力の定着をさせる。 ・中間層を引き上げるために、習熟度別少人数授業でのワークシートを工夫したり、ペアワークやグループワークで生徒同士が積極的に教え合うことのできる時間を設けたりする。 ・生徒たちに英語に対する興味関心をもってもらうために、授業の帯活動などを工夫する。